

C-69 和服の着付に関する人間工学的研究(第3報)

大阪薫英女短大 三浦美子 着くずれ率と摩擦係数との相関について

目的 前報における和服の着くずれに関する調査ならびに2・3の実験結果に基づき、和服の着装中に生ずる各部位の着くずれに関する要因は、人間因子を基調として他の何らかが関与しているのではないかと考え、被服材料の物性の1つである摩擦係数と着くずれ率との相関について検討した。

方法 試料として、胴裏地絹100%のもの、タテ絹100%ヨコポリエステル100% 更にポリエステル100%の3種を用い、表地としては、タテフロミックス100%ヨコ絹10%フロミックス90%の一越ちりめんの風合をもつシノンとの3種の組合せによる女物あわせ長着を4名の被験者により歩行実験を行い、各部位のずれ率と 同じ組合せによる摩擦係数との相関係数を算出した。

結果 頸窩上下において相関係数 -0.598 となり 表と裏の生地 of 組合せにより摩擦係数の大きいものは、胸もとのずれ率が小さいということがわかった。又、他の部位は 摩擦係数とは関係なく他の要因によるものであるという結果を得た。